

異国の文化を学び絆深める

中学生ら21人が姉妹都市バス市を訪問

米国メイン州バス市への訪問団が8月10日から19日まで10日間の日程で訪米し、両市の友好の架け橋として大きな役割を果たしました。

今年は中学生18人、引率者3人計21人の団員が参加。一行はさまざまなプログラムを通して、異国姉妹都市の歴史や文化を学び、自然を直接肌で感じながら絆を深めてきました。

9月16日に松の館で行われた報告会では、団員一人一人がホストファミリーとの思い出や印象深い体験談など、学び感じたことを堂々と発表しました。



- ① 遊覧船でケネベック川をクルージング
- ② バス市内の海辺で記念撮影
- ③ バス市のゆるキャラ？
- ④ 昔の造船作業を体験
- ⑤⑧ ホストファミリーとの絆を深めました
- ⑥ バス市の子どもたちと「福笑い」で交流
- ⑦ メーン州のポール・レページ知事を表敬訪問





バス市訪問を終えて

団員は、言葉も文化も違う異国でホストファミリーとの生活や触れ合いを重ねながら心を通わせ、異文化に理解を深めました。今回参加した団員のコメントを紹介します。



三浦 晨君 (木造中3年)



アメリカに行く前、僕はうまく会話ができるかとても不安でした。しかし、一度話すと一気に不安は吹き飛び、話の内容を理解でき、言葉を返すこともできました。言葉が伝わるということはおうれしいことだとあらためて実感できました。また、僕にとっては単なる日常生活も貴重な経験でした。特に印象的だったのが「時間」です。時間にあまり厳しくなく、日本とは違う、ゆっくりとした時間が流れていました。あっという間の10日間だったけど、たくさんの事を学ぶことができました。

松橋 和奏さん (車力中3年)



アメリカに行く前は不安で緊張していましたが、バス市があまりにも良いところで、最後には帰りたくなくなりました。バス市は、街がとてもきれいで、自然豊かで、人も皆親切で優しくて、私はバス市が大好きになりました。今回のバス市訪問で、日本では経験できないことをして、楽しみながらたくさん学び、思い出を作ることができました。学んだことを、将来に生かしていきたいと思います。また、もしアメリカに行くことがあったら、もう一度バス市に行きたいです。

佐々木春華さん (稲垣中2年)



途中私は体調を崩してしまい、一日中ホストファミリーの家で寝込んでしまいました。その時、奥さんが「アナタネテテクダサイ」と声をかけてくれたり、おなかに優しいおかゆを準備してくれたり、大変お世話になりました。優しさいっぱいとてもうれしかったです。看病のおかげで体調もよくなり、すぐに食べたロブスターは、おいしくて、体が震えてしまうほどでした。来年はぜひ、我が家に今回お世話になったホストファミリーを招待したいと思います。ウエルカムつがる市へ。

工藤 匡宗君 (木造中2年)



ホストファミリーと森でキャンプをし、バーベキューやキャンプファイヤーなどとても楽しかったです。ホストのダグラスさんとスーザンさんにとっても感謝しています。僕はこの旅行でいろいろなことを学びました。他国との文化の触れ合い方やアメリカのドルの使い方など、とても勉強になり楽しかったです。お父さんが第1回目で参加したこの国際交流事業に僕も参加することができて本当に良かったです。弟や妹にもこの経験を伝え、中学生になったら参加してほしいです。



バス市訪問団の皆さん

石川サヨさん100歳長寿を祝う

石川サヨさん（木造筒木坂）が9月1日、めでたく満100歳の誕生日を迎え、入院している尾野病院で顕彰状の授与式が行われました。

大正4年生まれの石川さんは旧車力村出身。亡くなった夫の久三郎さんと共に農業を営みながら6人の子どもを育て、孫13人、ひ孫9人に恵まれました。

この日、病院を訪れた市の境福祉部長から顕彰状や記念品が贈られると、お祝いに駆け付けた家族や病院の職員から大きな拍手で祝福されました。長男の妻の石川ひで子さんは「よく働き、好き嫌いなく何でも食べることが長寿の秘訣では」と話していました。



顕彰状を授与される石川さん

長寿夫婦54組を顕彰

9月1日、つがる市福祉顕彰式が松の館で行われ、長年連れ添い節目を迎えられた夫婦を祝いました。

今回市より顕彰されたのは、ダイヤモンド婚夫婦（結婚60周年）6組、金婚夫婦（結婚50周年）23組。式典で福島市長は「皆さんの豊富な知識と経験は価値観の多様化している地域社会にますます必要になっています。市の未来ある発展のため、今後ご協力をお願いします」と述べました。また、ともに88歳以上の夫婦25組に対して、西北地域県民局の田沢定信地域健康福祉部長が県知事顕彰を行いました。

式典後には、もりた保育園児らがよさこい踊りなどを披露し、出席した夫婦らは笑顔で拍手を送っていました。



顕彰状を受け取るダイヤモンド婚の夫婦

地域を見守り健康増進 地域安全ウォーキングin車力

地域の安全を見守りながら健康の増進を図ろうと9月12日、むらおこし拠点館フラット周辺で「地域安全ウォーキングin車力」が行われました。市内外から集まった約200人の参加者は、5km、10km、15kmのコースに分かれてスタート。秋晴れの中、黄金色に色づいた稲穂などの自然を楽しみながら自分のペースで完歩を目指しました。参加した女性は「いつもと違う見方で地域を歩くことで、きれいな風景など、あらためて故郷の良さに気付いた」と喜んでいました。

終了後は、とろろご飯としじみ汁の振る舞いや地元の野菜などが当たるお楽しみ抽選会があり、参加者は楽しい1日を過ごしました。



好天の中、心地よい汗を流す参加者



音楽隊の指揮に挑戦する児童

幅広い世代が音楽を楽しむ

9月1日、航空自衛隊北部航空音楽隊による演奏会が穂波小学校で開催されました。演奏会はリズムカルなラテン音楽やアニメ映画の主題歌メドレーのほか、曲調を変えた童謡での楽器紹介など幅広い世代が楽しめる構成となっており、全校児童や地域住民ら約250人を魅了しました。また、指揮者体験も行われ、3人の児童が緊張した面持ちで挑戦。6年の木村雄飛君は「難しかったけど、音楽隊のみなさんが合わせてくれるので楽しかった」と満足げでした。最後に音楽隊の演奏に合わせて全校生徒が校歌を元気に歌い、児童代表の長谷川里桜さん（6年）が「いろいろな音が重なり合って、とてもきれいで感動しました」とお礼の言葉を述べました。



優勝を報告した木造高相撲部の皆さん

木造高相撲部が全国選抜大会制す

64回選抜高校相撲十和田大会（8月15日）団体の部で優勝した木造高相撲部が9月14日、市役所を訪れ福島市長に喜びを報告しました。

同校の部員は3年の菊池大史芽主将と長谷川大起君、1年の長谷川貴規君の3人のみ。この大会には陸上部から神憲吾君（3年）を助っ人に擁して出場し、決勝で強豪金沢市立工業を2-1で破り、21年ぶり4回目の優勝に輝きました。

菊池主将は「木造高校として最後に出場した全国大会で結果が出せてうれしい」と報告。福島市長は「少数精鋭での優勝は評価が高い。今後も伝統ある相撲部の名声を広めてほしい」と健闘をたたえました。

伝統文化を未来へ引き継ぐ

市内の各地域で継承されている伝統芸能を一堂に会して披露する「つがる市伝統芸能フェスタ」が9月8日、牛瀨公民館で開催され、約150人の市民らが郷土の伝統を鑑賞しました。これは、伝統文化の振興を目的に市伝統芸能保存協会（花田会長）が主催し、今年で11回目となります。はじめに花田会長が「地域に根ざした個性を生かし、日頃の練習の成果を発揮してください」とあいさつ。つがる市登山囃子保存会、三方荒神鹿島獅子保存会、ホーハイ節保存会、弥三郎節保存会、木造甚句保存会、出野里獅子踊保存会がそれぞれの伝統芸能を発表しました。最後に特別出演の五所川原第一高校津軽三味線部が迫力ある演奏を披露しました。



舞いを披露する三方荒神鹿島獅子保存会



（左から）2位の松元さん、1位の清水さん、3位の川村さん

住みよい社会づくりへの思いを熱弁

つがる市少年防犯弁論大会が9月7日、柏中学校で行われ、市内5中学校の11人が学校生活や家族などをテーマに自分の思いを訴えました。審査の結果、1位に輝いたのは「生んでくれてありがとう」と題して発表した清水悠加さん（木造中3年）。母親がフィリピン出身という理由でからかわれたが、家族や先生のおかげで自分の違いを前向きに受け入れることができた体験を発表。「他人との違いをポジティブに生かす生き方もある」と考え、「将来はお互いの違いや良さを認め合い、伸ばし合っていく社会をつくりたい」と熱弁しました。また、2位には松元美季さん（柏中2年）、3位には川村萌花さん（森田中1年）が選ばれました。

堂々と英語でスピーチ 西北中学校英語弁論大会

西北中学校英語弁論大会が9月4日、松の館で開催され、西北五地域の19校55人が出場しました。

大会は創作の部と暗唱の部に分かれて行われ、参加した生徒はジェスチャーを交えながら堂々とした英語のスピーチを披露しました。

審査の結果、3年創作の部で1位の石岡伶奈さん（鶴田中）と2年暗唱の部で1位の三上明保さん（五所川原一中）が三沢市で開催される県大会への出場が決定。石岡さんは「全国出場目指して頑張ります」と、三上さんは「練習してもっと発音をきれいにしたい」とそれぞれ県大会に向けての抱負を話していました。



堂々とスピーチする出場者